



## 綾瀬市議会議員

厚木基地爆音防止期成同盟綾瀬支部 副支部長  
第五次厚木基地爆音訴訟原告団 綾瀬支部長  
広範な国民連合・神奈川 世話人  
会派 住み良い綾瀬をつくる会 代表

学校給食を無償に！  
高齢者の移動支援強化！

# こしかわ好略

住み良い綾瀬をつくる会

## ニュース

発行 2023年11月 〒252-1137 綾瀬市寺尾台1-5-22 生活相談、労働相談はお気軽にどうぞ  
ファックス 76-2128 携帯 090-4419-5091 Eメール y-koshikawa@hotmail.co.jp



フェイスブック、



ホームページは、左のQRコードを読み取って入れます。

厚木爆同「第五次厚木基地爆音訴訟団」「広範な国民連合」で検索すると、それぞれの団体のホームページがご覧になれます。

### 特別養護老人ホーム

## 県が承認すれば新設の可能性も

### 9月議会の一般質問

#### 【介護需要の見通しと対策について】

一般質問の中で、市が新たな特養施設の建設を県に申請していること。県が承認すれば、新設が可能なが明らかになりました。

次の問題意識で、質問しました。

2025年には団塊の世代が75歳以上になり、超高齢化社会に突入します。それに伴って、介護需要の急増が見込まれ、対応が求められます。

綾瀬市は現在、第8期介護保険事業計画に基づいて事業を実施していますが、今年度が最終年度です。市の施策を伺います。

そして、次のように求めました。

これから超高齢化社会になっていきます。健康でいられるようにすることが一番大事なことです。介護というものも避けて通ることができません。介護する側もされる側もできるだけ負担を軽くするように、まずは国が補償する必要があります。と思います。

次のように国の施策を批判し、市に対策を求めました。



特別養護老人ホームに入所を希望する市民は多くいる  
(写真はイメージです)

政府は台湾有事に備えて軍備を拡大して、トマホークなど無用な敵基地攻撃能力に莫大な税金を投入したり、そのために増税もしようとしています。日本を破滅に導く台湾有事は起こさないようにすること、そのためには軍備拡大ではなく、外交による解決をすることが必要だと思えます。

軍備拡大はやめて、超高齢化社会になって避けられない介護の問題にもっと財政を使うべきです。

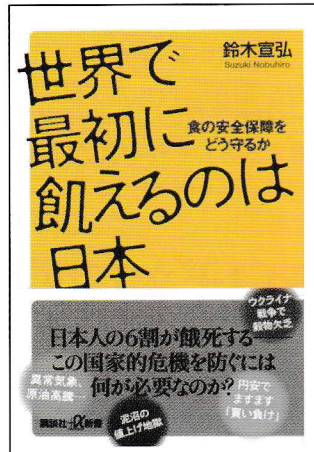
市としても、ぜひそういう声を上げていただきたい。そして、施設の拡充や人材確保など、市としてできるところは積極的に行って、高齢者とその家族の負担をできるだけ軽減するように図っていただきたい。

# 9月市議会一般質問で 市内農業の振興、遊休農地の解消を求めました！

9月議会の一般質問では次の問題意識で、綾瀬の農業振興策について質問しました。

「世界で最初に飢えるのは日本」という書籍が評判です。それだけ、日本の自給率が低く、国民の食糧を確保するうえで、危機的な状況になっているということなのです。

著者の鈴木信宣弘東京大学大学院教授は「まともな食料生産振興のための支援予算は長年減らされ、トマホークなど武器の大量購入と昆虫食などの推進が叫ばれる。コメを減産して乳牛を処分し、牛乳を廃棄して、いざ不測の事態に「武器とコオロギ」で生き延びることができるのか。今こそ考えなくてはならない」と指摘しています。私もそう思います。



## 野菜の自給率は実質8%

野菜の自給率は80%というが、その種は9割が海外の畑で種採りされているから、種が止まれば自給率は8%になってしまう。さらに、科学肥料の原料はほぼすべてを輸入に頼っている。肥料が止まれば収量は半減する。つまり、野菜の実質自給率は4%になってしまう。

食料自給率低下の一番の原因は、米国の食糧輸出政策に従って、米国の余剰農産物の処分場として、グローバル穀物メジャーなどが利益を得るレールの上のせられて、日本の食糧自給率を下げてきた日本政府の政策にあります。

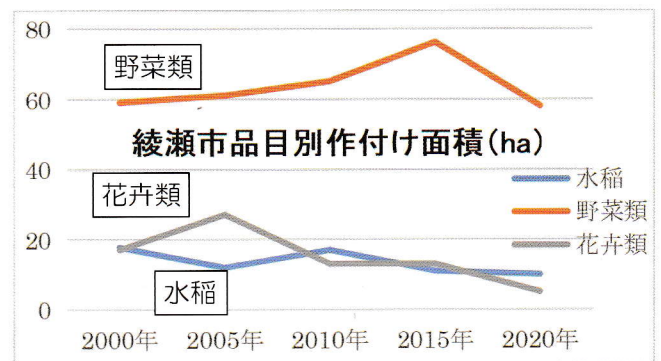
これまでは日本の食糧は「安い外国産の農畜産物をおカネを出して輸入で賄えばよい」という発想でしたが、最近では世界的な食糧危機が起これ、これまで食料を輸出していた各国が自国の食糧確保のために輸出をしなくなったり、中国などの「爆買い」で価格が高騰して、一部は買えなくなっている状況もあります。

現在の日本では肥料、飼料、燃料などの暴騰にもかかわらず農産物の販売価格は上がらず、農家は赤字にあえぎ、廃業が急増しています。

国民の命を守るには国内の食糧生産を増強する抜本的な対策が必要と思われませんが、政府は逆にコメ作るな、牛乳しぼるな、牛処分しろ、ついには生乳廃棄で「セルフ兵糧攻め」のようなことをやっています。このようなことをしては本当に「農業消滅」が急速に進み、不測の事態に国民は餓死しかねません。

農水予算は1970年には1兆円で、防衛予算の2倍近くありましたが、70年経ったいまでも2兆円2683億円で、前年度比0.4%減。

現在、防衛予算は6兆7880億円で前年度比26.4%増。農水予算は防衛予算の3分の1と減少しています。わが国国民一人あたりの農業予算はアメリカやフランスの半分、韓国の3分の1に過ぎません。



綾瀬市の耕作面積は減少している

また、2010年に205万人だった基幹的農業従事者は、この12年で4割に当たる82.5万人が離農。農地は東京都の面積を大きく超える26.8万ヘクタールが失われています。

農業・農地は保水や緑の景観維持に役立ち、水害や地球温暖化防止など様々な機能を持っています。食糧安保だけでなく、環境保全の立場からも積極的に支援していくことが必要と考えます。

## 食料自給率の向上をめざさない政府の施策

政府はいま、農政の基本理念や政策の方向性を示す食料・農業・農村基本法の見直しを進めています。5月に公表した中間とりまとめでは、新たな展開方向が発表されましたが、これまでの目標であった「食料自給率の向上」の数値目標をさまざまな目標の一つに格下げし、「展開方向」では、「食料自給率」という文言自体がなくなりした。

これに対して鈴木教授は「自給率をこれまでよりも軽視しているような内容に見える。日本には広大な農地は少なく、効率化は現実的ではない。例えば、他の仕事をしながら農業にも携わるような「半農」の形態を増やすということも必要だろう」と言っています。綾

また、「農家が地域住民に農作業を教え、耕作放棄地も使って身近な地域で生産から消費までの循環型の仕組みを作り上げる。そうした意識を、国民が持つ必要がある」とも言っています。

綾瀬市は「耕作放棄地も使って、身近な地域で生産から消費までの循環型の仕組みを作り上げる」ことが必要だと思います。

日本では欧米に比べて、農業に対する政府の支援が少ないと言われています。これから世界的に食糧難の時代に入り、これまで輸入に頼っていた日本の食料は、自給率を高めないと本当に危機的な状況になると思います。

## 市内農業振興のための提案

市内農業をみましても農業の担い手を増やさないと、農業それ自体が成り立たなく



未耕作で荒れる農地が増えている

なる状況にあると思います。現在の就農者に頑張ってもらふこととあわせて、新規就農者を増やし、定着してもらふことが重要です。

国に対して本気で農業振興、支援を行ってもらふよう求めると共に、市として独自の農業振興策を進めることが必要だと思います。

新規就農者支援では金銭的な支援も必要ですが、それだけでなく、先輩農家の皆様のご理解とご支援、新規就農者同士の交流も必要だと思います。ぜひ、その辺も市としてご支援をお願いします。

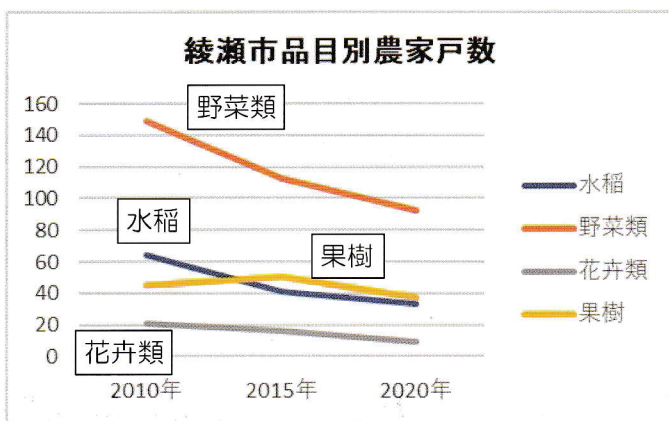
綾瀬ブランドである菜速コーンやブロッコリーで農業経営が成り立つことをアピールして、新規就農者を呼び込むというようなことをやってはどうでしょうか。

また、肥料や資材の高騰に価格転嫁が追いつかない状況です。化学肥料の価格指数は2020年を100とすると、今年の5月には195と、2倍近くまで高騰しました。市として補助金を支給するなどして支援していますが、引き続き、必要な時には支援が必要です。

市内農業を振興するために、学校給食の食材として活用するというのを、もっと積極的に取り組んでみてはどうかと思います。

遊休農地、荒廃農地の活用につきましては、市が借り上げて家庭菜園として貸し出すということ、もっと増やしても良いのではないかと思います。

農地は環境保全と言う意味でも重要な役割を果たしています。遊休農地、荒廃農地につきましては市が借り上げて管理するというのも一つの方法ではないでしょうか。



綾瀬市の農家戸数も減少している

## 綾瀬市駅伝大会

### 来年はスポーツ公園周回に

正月恒例の綾瀬市駅伝競走大会は来年、厚木基地の南側にあります市のスポーツ公園と大和市のゆとりの森の一部を使用した、園路コースを走ることになりました。

ランナーの安全と市民の応援を配慮した、良案だと思います。

今年の駅伝大会は光綾公園をスタート・ゴールとして、厚木基地の周回コースを走りました。

私は、これでは応援する人たちの居場所が狭く、市民交流の場が少なくなるということと、政府が台湾有事をあおって戦争準備を進めている中、厚木基地は危険が増している。厚木基地に対しては厳しい態度で臨むべきという理由で、コースの変更を求めてきました。

### 自転車用ヘルメット購入に補助金

9月議会では、自転車利用時における事故や転倒から頭を守るヘルメットの普及促進を図るため、自転車ヘルメット購入費の一部を補助することが決まりました。

申請受付期間は令和5年10月1日（日曜日）から**令和8年3月31日（火曜日）まで**。一人**最大2千円**です。

詳しいことは市のホームページをご覧ください。

「綾瀬市 ヘルメット補助金」で検索するとご覧になれます。

## 中心市街地再編

### タウンヒルズ継続で検討を

綾瀬市はいま、タウンヒルズを解体して、消防本部跡地と一体として新たな商業施設をつくろうとしています。

新たな施設は、株式会社ヤオコーが主体となって、設計します。

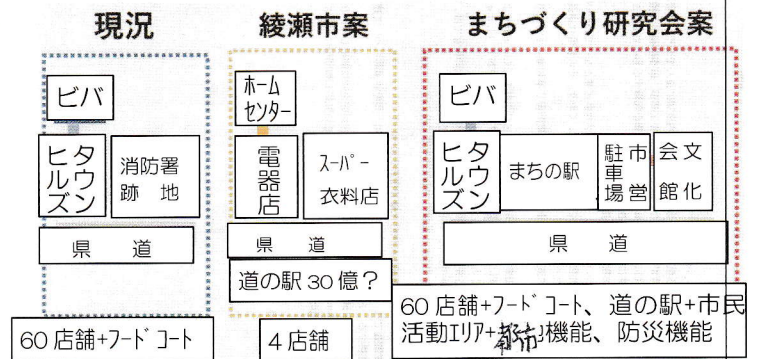
現在、ヤオコーからは概要図が出されていますが建物が3つになり、それぞれの建物に行くには一度外に出なければならず、不便になります。

タウンヒルズの管理者は契約の継続を希望したのに地権者は、消防署跡地と一体で再編したいということで断りました。

市民でつくるまちづくり研究会では、タウンヒルズをそのまま残して、消防本部跡地との間に「まちの駅」をつくる案を出しています（下図）。

そして、まちづくりについて市だけで進めるのではなくて、市民の意見を取り入れてほしいとしています。

タウンヒルズは市民にとっても使いやすいものです。



（綾瀬市まちづくり研究会のホームページから、一部加筆）

中心市街地再編については市民の声を聞いて、タウンヒルズ継続で検討するのが良いと思います。

市民の皆様の声をぜひ、お聞かせください。

## 定期整備終了で試験飛行実施

### オスプレイは飛ばすな！

厚木基地では現在、隣接する日本飛行機の工場に米海兵隊の輸送機オスプレイが機体の定期点検整備が終了し、9月には試験飛行を行いました。

オスプレイは米空軍も認める欠陥機で、墜落の危険が高いことが以前から指摘されています。

墜落の危険が高いオスプレイは、綾瀬の空にはいりません。

オスプレイの飛行はやめろ！ の大きな声をあげましょう！



民家の屋根の上を飛ぶオスプレイ